

株式会社晃立

逆転の発想で、学生服に今までにない機能性を 強固に施す生産プロセスの革新

晃立は岡山県倉敷市や香川県観音寺市で学生服やカジュアル衣料を生産する。創業時から手がける女子学生向けスカートのプリーツ加工は、現在国内最大規模という。プリーツ加工で使用する真空加工を応用し、学生服に機能性のある粒子を繊維に浸透する技術を開発。専用の真空加工機を導入し、生産体制を構築した。

会社概況

スカートを年間70万着加工

晃立は1965年に学生服のプリーツ加工を手がける晃立プリーツセンターとして設立した。1971年にジーンズの洗い加工を始め、1974年に社名を現在の晃立に変更するとともに縫製部門を新設し、製品の一貫加工ができる体制を整えた。祖業のプリーツ加工は女子のスカートを年間約70万着加工しており、「この規模を加工している会社はほかにない」（山崎取締役）という。

現在は岡山県倉敷市に本社と第一工場、小川工場を構える。また営業拠点として東京都渋谷区に東京事務所を設けている。プリーツ加工のほか、学生服やジーンズなどのカジュアル衣料を生産し、学生服メーカーをはじめ、東京の商社やメーカーに納めている。



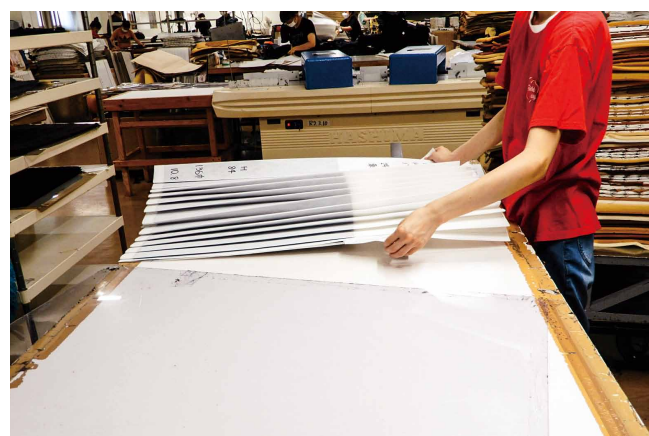
倉敷市内に2カ所の生産拠点

事業内容

繊維の奥深くに薬品が浸透

学生服の市場は出生数の減少による少子化により、数量は年々減っている。一方でカジュアル衣料の分野で保温など機能性のある製品が発売され、保護者から機能性を求める声が増えているという。学生服は3年間着用するため、洗濯耐久性や撥水性などの機能が求められた。

従来は衣類に薬品を噴霧し圧力を加え、機能性を付加していた。ただ、ファスナーや肩パッドなどの付属品が破損するなど用途が限定されていた。そこで着目したのが真空加工。女子のスカートをプリーツ加工する際、真空加工機でプリーツが取れにくいように加工していた。この技術を応用し、繊維の奥深くに薬品が浸透し、機能性加工する技術を開発した。



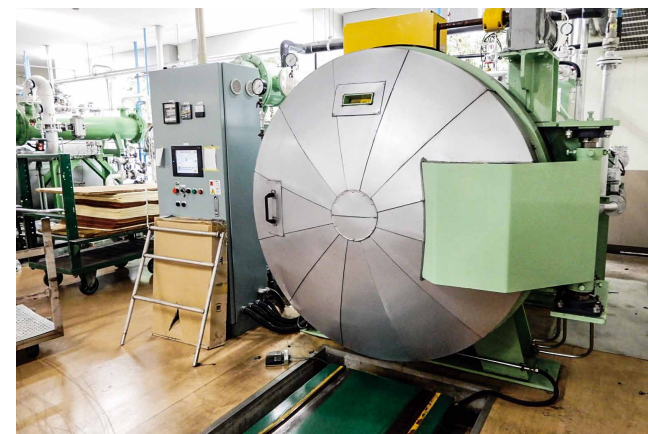
型紙を使ってプリーツを付ける

事業成果

付加価値高い学生服を製品化

2019年、学生服を生産する小川工場に新たな真空加工機を導入した。真空と高温の工程を繰り返すことで、薬品の粒子が繊維に浸透する効果が生まれるという。また、これまでの圧力による加工では部分縫製したものに機能加工を行い、その後に最終的な縫製を行わなければならなかった。今回の真空加工は最終縫製したものに機能加工するため、縫製工程が1度で済み、生産性も向上する。

現在は「受注に向けて学生服メーカーに提案している状況」（山崎取締役）という。厚生労働省が6月に発表した2021年の出生数は過去最低の81万人。今後も学生服市場の減少が見込まれる中、付加価値の高い学生服を製品化していく方針だ。



真空加工機を新たに導入



ワンポイント

地域の雇用を創出

文部科学省によると2017年時点の全国の校数は中学校が約1万、高校が約5000ある。学生服は学校ごとにデザインが異なる典型的な多品種少量生産。また、納品が3月末から4月初めに集中するという意味でも通常の衣料生産とは異なる。岡山県倉敷市には学生服大手が工場を構え、大手から仕事を受注する地場企業も多数存在する。地場企業は繊維産業を支え、雇用の場を創出し、地域に貢献してきた。

取締役

やま さき げん き
山崎 元樹さん



会社概要

company profile

設立	1965年	所在地	岡山県倉敷市児島小川7-1-34
資本金	1200万円	T E L	086-474-5500
従業員数	約130人	F A X	086-472-0163
売上高	非公表	U R L	https://kouritsu.co.jp/